

2024 年 12 月 7 日(土) 勉強会

○皆様、こんにちは。12 月 7 日土曜日の勉強会を始めます。今日のタイトルに、『意識の相互作用とその真相』と書きました。

○午前 11 時からの動画による祈りの会で真妃先生が「消えてゆく姿」を消し合うのには、どこの誰かも知らない他人と消し合うのではなく、よく知った身近な人…、例えば家族とか仲の良い友達とかとやれば、消えてゆく姿を消すことを、お互いにやりやすいというお話がありました。

○また、「神聖が周りの人たちにも現われ始めている」という想いを、皆様も持たれていると思いますが、それは、「周りの人が変わったからそう見えるのではなく、自分自身が変わった程度に応じて、周囲が変わって見えるようになるものだ」という話がありました。

○私たちは、神聖を甦らせ、復活させたその程度に応じて、周囲の方や知り合い、友達、家族などに、神聖を見出すことができる私たちになっている、というところが、今回のタイトル『意識の相互作用とその真相』で一番伝えなかったことです。

○私たち、こうやって生きていて、関わり合っていて、お互いに影響を及ぼし合っているんですけども、それでも、自分じゃないほかの人を、根本から変えることはできないんです。

○人の心が変わり、行動が変わるということは、あくまでも、その人自身の意識が「本当に変わりたい」という発心を起こして、実際に変わるための取り組み、練習をして…、人によってはそれを修行って捉える人もいるかも知れませんが、そういう自分が変わるための取り組みをして、初めて変わるものなんです。

○私たち人間は、誰かに何かを言われたから変わるっていう、そういうものではないんです。

○でも、そこまでの強い影響は及ぼさないんですけど、人の書いた文章とか、人が話す言葉っていうのは、それを受け取った誰かの心に影響を与えています。

○それは、目に見えた関わり合い方ではありません。例えば、「あの方の天命が完うされますように」というお祈りや印なんかも、誰かの意識に影響を与えています。

○影響を与えるんですけど、本当に変わるかわからないかは、その方自身のことなんです。もっと正確に言いますと、その方とその方の守護霊・守護神さまの責任の話になります。

○だから私たち、いつも、「どこの国が平和でありますように」「どこの国が平和でありますように」「どこの国が平和でありますように」って、いつもいつもいつも、5 年、10 年、20 年、30 年、40 年、長い方は 50 年以上、「世界人類が平和でありますように」「何々国が平和でありますように」ってお祈りの仕方をしていきますけど、それはその国の方々に届いておりますけど、「本当に変わるかわからないか」というのは、そのひとりひとりの責任になるんですね。

○それが、神聖復活の印が出たことによって、世界人類だけではなく、自然界、動物界、すべての存在の中にも、私たちがいつもやっている印の光が、心の奥深いところ、命の奥深いところと通じ合って、それぞれの人なり、生き物なり、自然環境なりを、内側から蘇らせる力になっているんじゃないかしらと思っております。

○消えてゆく姿の話ですけども、今日の動画の祈りの会で、私がとても印象に残っていたのは、「周りの近しい人たちとよく知らない人では、近しい人たちとやるほうがやりやすい。」っていうお話をされていま

した。このことが、私たちがどう思うかに関わらず、縁のある人々との間で、擦れ合ったり、ぶつかり合ったりして、消し合う側面がある、という真実を指し示しています。

○それは同時に、悪いこと、ネガティブなことばかりじゃなくて、喜びを感じるようなこと、心を楽しませてくれるようなことも、縁のある人たちとの間で共有をして、生きてゆく仕組みになっているということです。

○それから消えてゆく姿を消し合う相手として、一番効き目があるのは、自分の家族です。

○家族との関係、それは夫と妻、親と子、兄弟姉妹、それが3世代、4世代になってるご家庭もあるかも知れませんが、そういう家族関係の中での擦れ合いやぶつかり合い、すれ違いってというのが、一人一人の自分の中にある『把われの想い』に気づかせてくださる現場になっているんだと思います。

○それが例えどんな些細なことも気づきの種になります。うちのものすごくプライベートな消えてゆく姿の話します。

○今日は、ご本人がいないんで、話しますけれども、寝るときに布団を二つ並べて寝てるんですが、11月の半ば頃のことだったと思うんですけど、夏用の上にかけるものから冬用のものに変えたタイミングがあったんですけど、どっちがどっちの布団を使うっていうことで喧嘩しました。

○ものすごくくだらない話で、犬も食わないっていうそういう話なんですけど、もう本当にそうなったときっていうのは、お互いに感情がむき出しになるんですね。

○心の中で押さえなきゃいけない、そんなことやっちゃいけないってわかってるんですけど、感情が出てくる。ものすごくくだらない自己保身とか思い込み、決め付け、こだわりなどです。

○私、いつも言いますが、五井先生が一言で『把われの想い』と言い表して、「把われの想いを手放すんだよ」「守護霊・守護神に預けるんだよ」っておっしゃっておられる把われの想いっていうのは、具体的に何なんだろうなって、この10年、20年、いつも考えてきました。

○それでわかったことは、把われの想いというのは、私たちの心の中にある思い込み、こだわり、決め付け、執着などです。全部に「一方的な」という枕詞がつきます。

○一方的な思い込み、こだわり、決め付け、執着、一方的な勘違いとか、そういう一方的な考え方、ものの見方っていうのが、人間を神聖の存在と認識出来なくしている原因です。

○それが全部消えてゆく姿として、手放すことができれば、守護の神霊に預けることができれば、私たちは完全に綺麗な心と体に近づいてゆく。「私の中にはもう何にも一切消えてゆく姿なんてありませんよ」ってならなくても、把われたり、引っかかりたりすることがなくなる、もしくは少なくなると思うんですね。

○2010年以降の14年間の私自身を観て、自分の心の動きを振り返ってみますと、そのことをものすごく痛感します。

○実際に2010年より前の私は、時々お話しますが、本当に不平とか不満とか不足の想いとかをいつもいつも垂れ流して、周りの人たちを不愉快にしていた、そういう人間だったんですね。

○そんなことばかり思ってるから、「世界人類が平和でありますように」って、片方で祈ってるのに、不調和な世界を自分の人生に作り出すっていう、二重人格みたいな、そういう状態で過ごしていました。

○この勉強会に最近になって入った方、いらっしゃるかどうかわからないんですけど…、あ、いらっしゃるんですね。

○よく言うんですけど、私の 2007 年の新年の指針は、【業想念が多すぎる。一生をかけて逆転せよ。】という内容でした。

○これは、当時の私にはものすごく沁みたんです。なんで沁みたかという、本当にそれそのもので、図星だったからです。

○たとえ、それを言うてくださるのが守護霊・守護神の愛だとしても、「そこには触れてもらいたくなかった」っていうところに触れられた、それを表に引き出されたっていうところで、本当に何とも言い難い気持ちになり、また、うちの人にそれを見せて、無邪気に笑われたことで、さらに恥ずかしい想いをし、自分に責任がある話だってことは重々承知なんですけど、その指針をバネにして、「よし、逆転させよう。業想念と神聖を逆転させよう」ってすぐに思えなかったんです。

○だからその指針をいただいた 2007 年の初めから 2010 年の途中までの 3 年ぐらいの間は、ものすごいわだかまりを持って、暗い気持ちで過ごしていたんですけど、2010 年、ちょうど広島に半年間の出張に行っていたときに、広島城の辺りを歩いていたときだと思うんですけど、心の中からものすごい強い響き、声なき声がしたんです。

○その声は、「どんな人にもありがとうございますと言え」もう一つ、「起きている間中の呼吸をゆったりとしたものにしろ」という響きを肉体の意識に伝えてきました。

○私がそのときに答えたことは、「呼吸をゆっくりすることは得意だから出来ます。でも、嫌いな誰々や苦手な誰々や、誰々や誰々みたいな人たちに、ありがとうございますだなんて、言えないから出来ません」って答えたんです。

○そしたら、ものすごくこっぴどく叱られたんです。「つべこべ言わずにやれ」って。本当に雷が落ちるってこういうことなんだなって思うぐらいの大きな厳しい響きで一喝されて、その後に本当に優しい響きで、「心の中で、なんでこんな奴にありがとうございますなんて言わなきゃいけないんだよって、毒づいていてもいいから、顔はにこやかに、声は柔らかく、ありがとうございますとやってごらんなさい」って諭されました。

○それで、私は理屈っぽいのに、単純なところがあるのか、そのときに「そうか。心の中で思っていることと、表面でやっていることが違ってもいいんだったら、自分にもできるな」って思ったんです。

○それでやり続けて、もうはっきりと変わったって自覚したのは、3 年以上が経った 2013 年に入ってからでした。

○「嫌いな人がいない、苦手な人もいなくなった」と思える自分に変わっていたんです。あんなに人間関係が嫌で、「もうこの地球界の人との関係に馴染めない」と思っていたのにです。

○だから自分は宇宙人じゃないかって思ってたんですけど、でもそんな立派な宇宙人じゃないですね。地球の人間と仲良くできないんだったら、それは立派とは言えないんで…。

○そういう感じで 40 何年、人間関係で本当に苦しんできたのが、2013 年過ぎてからは、あまり悩まなくなりました。全部なくなったわけじゃないんですけども、やっぱりその後に出てくることっていうのは近しい間柄が多かったです。

○特にうちの人との間では、いろいろありました。別に私は、暴力を使うとか絶対しないです。私、他人に対して「お前」って言葉を使えないんですね。この世に生まれてきてから、他人に対して一回も、友達にも年下の人たちにですら、「お前」って言ったことがないんです。言われることはいっぱいありますけど…。

○だから心のどこかで、「こういう言葉を使っちゃいけない」って、思い込みがきつとあるんだと思うんですけど。あんまり綺麗な言葉じゃないですから、使わないなら使わないに越したことはないと思いますけれども。

○ただ私は、ワンネスのメディテーションで、うちの人と並んで手を繋ぐ姿を見たことがある方はご存知だと思いますけど、うちの人背丈って、私の肩より下の背丈なんですね。

○だから私、自分の常識で、触れ合うときに、「これぐらいの力加減なら大丈夫だろう」と思うのが、彼女にとっては痛いときがあるらしいんですね。

○それでしみじみと思ったのが、やっぱり男の人と女の方は、筋肉の量とか、体の大きさとか、いろいろ違って、感じる基準が違うんだなっていうことでした。

○私は、なるべく優しくやってるつもりなんですけど、それでも女性から見たらなんか暴力的に感じるみたいなことがあるらしく、もっともっと寄り添って考えなきゃいけないんだなっていうのを思っております。

○この間、11月23日に五井平和財団のフォーラムが、皇居近くの日経ホールでありました。そのときに、ナイジェリアのハフサットさんっていう、女性の方が最後5人ぐらいと対談するパネルディスカッションの場面で出てたんですけど、そのとき、そこにステージ上におられたのは、司会進行が裕夫先生、スピーカーとして昌美先生、ハフサットさん、インドのニップンさん、それから資生堂会長の魚谷さん、この4名の方でした。

○その4人のスピーカーの方は、それぞれにこの世の中を良くするためにはどうしたらいいかっていう、ご自分の体験に基づく話をされていました。そこで、私が一番心に残ったお話は、ナイジェリアのハフサットさんのお話でした。

○彼女は、一言で言えば、女性の社会進出のお話をされました。例えば、政治の場面でも、会社とかお店とか、行政とか、いろいろな社会的な場面で、責任ある立場にもっと女性を使うとよいというお話をされました。「そうすれば、世の中はもっと良くなるはずだ」と。

○私はみんなが拍手しなかったんで心の中でこうやって拍手していました。それは、私も常々思うことなんですけれども、イスラエル周辺の問題、ロシアとウクライナの問題、アフリカのいろんな国における内紛、これは中南米も同じですね。不調和な状況にしているのは、みんな男たちなんです。

○特にブラジルより上アメリカより下の国々は、もう国内事情が荒れている国がとても多いです。アジアでも、アフガニスタン、パキスタン、ミャンマー、他の国もいろいろな内情を抱えています。

○何でこんなギスギスした世の中になってるのかっていうことを考えたときに、男たちが中心になって世の中を動かしているからだと思うんですね。そこに女性の意見が入っていない。女性の意思が入っていない。

○ロシアのお母様方、ロシアは今、ウクライナを攻めてますけど、ロシアのお母様方も争いは望んでいません。一部政府に洗脳されて、「もっと攻めろ、もっと攻めろ」って思ってる人いるかもしれないですけど、自分の息子を戦争に取られたお母様は、皆さん、戦争に反対されてます。

○ロシア国内では、戦争って言ってないかも知れないですけど、みんな反対してます。きっとイスラエル国内もしくは、パキスタン、パレスチナ、レバノン、ウクライナもそうですね。どこの国のお母様方も同じ気持ちだと思います。

○戦争に息子が取られるだけだったらまだしも、その戦地で息子さんが亡くなっちゃった日には、もうお母様方の気持ちは浮かばれませんね。

○それは全部、男たちが中心になって、やってきたことなんですね。

○スピリチュアル界限では、女性性をもっと旺盛に発揮していければ、世の中がもっと良くなるんだっていうお話があります。

○白光でも女性性の重要性に関して、一時期、話題に上がっていたことがあったと思いますけれども、当時、男性性と女性性ってなんだろうかと、私も思いました。多分、ここ10年ぐらいの動きだと思います。

○それで教わったことは…。教わるっていうのは、命が教えてくれるんです。命が教えてくれるっていうのは、守護霊、守護神が教えてくださる。

○自分の直観とか、ひらめきとかの形で思うことなんですけども、男性性にも女性性にも、陰陽があるんだ、プラスとマイナスの側面があるんだということでした。男性性の陰陽、女性性の陰陽があるということです。

○それは、男性性は男性だけにあり、女性性は女性だけにあるっていうことではありません。男性の中にも、男性性と女性性がそれぞれ陰陽兼ね備えられ、女性の中にも、男性性と女性性が陰陽それぞれ兼ね備えられているということです。

○今の世の中は、社会の仕組みのなかでも、世の中のいろんな分野、政治の分野でも、経済の分野でも、学問の分野でも、男性性の陰の要素、マイナスの要素が前面に一番強く現われて、いろんなことを動かしているのではないかというふうに思いました。

○この状態をもっとバランスのとれた意識状態に持ってゆく力が、女性性の陽の力、プラスの力です。

○女性性のマイナスの力っていうのは、皆さん、言わなくてもわかるかもしれないですけど、他人を恨んだり、羨ましがったりといった感情的な想いの動きです。

○でも女性性の良い方の側面、プラスの面っていうのは、宇宙神、宇宙の大元の産み育てる意識とその力というもので、無償の愛、見返りを求めない愛を、何も努力をしなくても、自然とできる力です。

○今、2024年、これから2025年になりますけれど、今の時代に一番必要な要素が、そういう無償の愛だと思います。

○それを想念、言動行為に表わして、自分を守ろうとするような気持ちが起こらない。そういう人が今、神界から求められてるんだと思います。

○それは、本当に神聖を表わした人々の中から現われます。自分をよく見せようとかするのではなく、自然体でそれができているっていう人たちが、これからスポットライトを浴びていく世の中が変わってゆくと思います。

○前にも言いましたが、街角に立って拡声機か何かを持って、大声で「代わりなさい！代わりなさい！」って叫ばなくても、そういう生き方を自分に表わしてる人が、1人、2人、3人、5人、10人、15人、20人、30人、50人、70人、100人、150人、200人、300人、500人、700人、1000人、2000

人、3000 人、4000 人、5000 人と増えてゆけば、もう地球は絶対に平和になる、必ず良くなるというふうに信じています。

○それは一にも二にも、私たちひとりひとりが本当に日常生活の中で、神聖を想念、言葉、行為に表わしてゆくことなんだと思っております。

○はい。13 時 40 分になりました。それでは、50 分まで休憩にしたいと思います。休憩が終わった後は、神聖復活の印を皆様と一緒に 7 回組んで始めたいと思います。それでは画面を最初の状態にしておきます。気になる方は、ビデオもオフにして休憩に入ってください。51 分にします。51 分までです。

〈10 分休憩〉

はい。それでは 51 分を回りましたので始めます。最初に神聖復活の印を、7 回一緒に組ませていただきます。

〈神聖復活の印 – 7 回〉

○明日の朝 9 時のお祈りの会なんですけれど、予定通りであれば、『地球世界感謝の日』だったんですけれども、こういう形でやったらどうだろうっていうプログラムが出てきましたので、『肉体人間観を抱きしめる日』というタイトルで、30 分ぐらいのプログラムを行なうことになりました。

○これは、今週の月曜日の夜、私、夜の 21 時 15 分過ぎに寝たんです。うちの人と相談をして、「眠くない？」って話したら、「眠い」っていうんで、「もう寝ようか」って言って寝ました。

○21 時 15 分過ぎでした。皆さん、ごめんなさい。夜の Zoom 祈りの会で、皆さんが一生懸命に印を組んでいる時間に、私はもう寝させていただきました。

○そしたら夜中の 2 時前ぐらいに目が覚めて、もう目がパッチリと開いて寝られなかったんで起きたんです。

○起きてすぐに、パレスチナ、イスラエル、レバノン、ウクライナ、ロシアのことに想いを馳せていました。

○長田さんの後ろにもありますけど、ここに大きな世界地図を掛けてるので、こうやって見ると、いろいろ思うんです。

○ちょうどこの縦のラインで、争いが起こっている。先ほどお話した男性性の陰の部分が一番色濃くこの地域に表われている。

○どうやったら地球の人たちは、争い合うことを止めるんだろうなって思ったときに、もう悩む時間なく答えが降りてきました。それは何かというと、『肉体が自分だと思いう想いを「これは本当の自分ではないんだ」と、地球の人たちが気が付けば争いはなくなるよ』というものでした。

○ついついこの体を持って生きていますと、例えば肩が痛いとか、腰が痛いとか、頭痛がするとか思います。また、いろんな病の症状がありますけど、逆流性食道炎とか、胃潰瘍とか、もしくは脾臓の病気、肝臓の病気、腎臓の病気、血液の巡りがうまくいかない、血管の収縮がうまくいかないとか、ちょっと油断したら心臓が肥大化してしまうとか、いろんな病気があります。この体の感覚として感じるもの…、例えばこうやって叩けば痛いと思う。

○目に見えているのがこの体ですから、私たちはついつい、自分のことをこの体が自分なんだって思い込んで生きています。

○それは今回の人生だけの思い込みではなく、何回も何回も生まれ変わるなかでの、過去世から積み重なった想いの癖っていうのが、今の私たちの中にあって、「人間は肉体なんだ」「この肉体こそが人間なんだ」って、ちょっと油断すると私たちでも、そうってしまうことがあります。

○そうしたときに、「この肉体の体で生きながら、「人間は神聖の存在なんだ」「光の存在なんだ」「決してこの身長百何十センチ、体重何十キロのこの体が自分じゃないんだ」っていうことが、どうしたら誰もが当たり前に分かるようになるのかな」って思ったところから、明日の朝やるプログラムが降りてきました。

○パソコンに向かってこうやって手を動かしたら、2時間ぐらいで台本が出来上がったんですね。細かい中身も含めて全部出来上がりました。

○本来は、土曜日の担当をお願いしていた方々がいるんですけど、その方々に変更の許可をもらって、土曜日朝のプログラムのタイトルを、肉体を自分なんだって思ってる想いを抱きしめる日だからということで、『肉体人間観を抱きしめる日』っていうふうにしました。

○先ほどの話で、どうやったら肉体人間観を私たちは本当に卒業できるんだろうなって思ったときに、11月23日土曜日の『動画による祈りの会』のときに、五井先生の録音テープのお話を聞きましたが、あのときの話を思い出しました。

○私はふだん、そんなにすべての日本の白光の動きを海外の方にお伝えするということはしてないんですけど、あの日の五井先生の話の内容だけは、世界中の各国の方々にも伝えた方がいいなっていう直観があって、まず英語にし、文法チェックをして、たどたどしい英語かもしれないですけど、文法的に間違いのない状態にし、それをスペイン語にし、イタリア語にし、英語・スペイン語・イタリア語に訳した文章を、各国の皆さんにメールで送りました。

○そうしましたところ、アランTONのキャロラインさんとか、オーストラリアのジェニーさんが、「この五井先生の話はいつのお話ですか？」という質問をしてこられました。私もそこまで深く考えていなかったんですけど、そういう質問があったもんですから、私が持っている資料とかデータとか、いろいろ調べたところ、あくまで私が持ってるデータの話ですが、1980年6月のご法話と出ていました。

○でも、皆さんもお気づきでしょうけれども、あの五井先生のお声は、1980年のお声じゃないんです。もっと若い頃の声、多分、1965年前後のお話じゃないかしらと思っています。お話のタイトルは、『人類の起源』というタイトルでした。

○この講話は、海外の方にもいろいろ響いていて、例えばメアリーさん、白光出版のディレクターのメアリーさんなんかも、この話の翻訳が欲しいと神様にお祈りをしてたら、あなたからこのメールが来たから私の祈りが叶えられたって書いてあったんですけど、他にもいろんな国の方が反応をされていました。

○この『人類の起源』っていうお話の中で、私たち人間が、どういうふうに生まれてきたのかというお話をされていました。ダーウィンの進化論の側面から、アメーバから始まった命がお猿さんを経由して、類人猿になり、この類人猿から今の人類、完全に直立歩行する人類に進化したという側面と、金星から来た宇宙人が地球に引っ越してきて、はじめにまず地球の神界に住み、そこからもっと波動が粗い霊体を作り出して霊界に降りてきて、その次にもっと波動の粗い幽界で過ごせる幽体という体を作り出して降りてきて、最後に、もうこれ以上波動を粗くできないという極限の体、肉体を作り、この最果ての地である肉体界、現象界に降りてきた。この現象界、肉体界で生きてゆくための体を幽体の上にまとして、ある時、忽然と私たちは地上界に現われました。そのお話がこの『人類の起源』という話の中にありました。

○これは、さっきも言ったことですが、私たちが「自分は肉体なんだ」という思い込みを手放し、卒業して、「私たちは神聖の存在なんだ。そんなの当たり前じゃない」という意識に行くために、そろそろ知っておいた方がいい話なんだと思うんです。

○この『人類の起源』の話ですね。Zoom 祈りの会メールマガジンで、この五井先生のお話は全部、文章にしておりますので、皆様もよろしければ、何回も読んでください。今日いらっしゃるかわかんないですけど、福岡の古賀さんと2人で手分けして、この五井先生のお話を何回も聞きながら文字にしました。

○ここに書かれている内容を知ること、私たちは自分たちが何者なのかっていうことを明確に思い出すことができると思うんです。私たちは類人猿から進化した人類ではないんです。

○遠い昔、どれくらい遠いかも年代で言えないくらい遠い昔に、金星から地球に降りてきた宇宙人類が私たちだったんです。何代前の私たちの過去世かはわかりません。私たちの地球での始まりは、金星から移住してきた神霊だったんです。それが私たちの始まりだったんです。

○明日の朝のプログラムでやりますけれども、白光誌にも出てた話なんで、ご存知の方も多いかも知れないんですけど、五井先生が地球に来たときの最初のお名前、今に残る名前は、天孫瓊瓊杵尊（テンソンニギノミコト）です。この天孫瓊瓊杵尊と呼ばれた神霊が、金星にいたときに、「新しい星、あそこの地球という星にこれから行くけれども、私と一緒に行く人はいますか？」って言って、行く人を募ったんですね。

○私たちは、金星にいたときに、そこで手を挙げて参加した人たちなんです。天孫瓊瓊杵尊が率いる地球開拓団の一員として、地球界の神界に移住してきたっていうのが、そもそもの私たちの地球での始まりでした。

○でも、それがやっぱり、何回も何回も生まれ変わりを繰り返すうちに、自分が神霊だった事実を、自由に運命を創造する力を持ってるものなんだっていうことを忘れてしまいました。

○人間と真実の生き方の中にはその部分が、「この世の中の全ての苦悩は、人間の過去世から現在に至る誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆくときに起こる姿である」と、ものすごくあっさりと書かれています。

○今日の真妃先生もおっしゃってた話ですけど、「忘れたことが悪い」という話ではないんです。一旦は忘れるように、宇宙神からプログラムされてたんです。そうしないと、この波動の粗い世界に根を張って、この波動の粗い世界に、宇宙神のみ心、理念を広げることができなかったからです。

○そのように、神霊であった事実を、私たちは一旦は忘れたんですけど、宇宙神は元々人間たちがそうなるっていうことはプログラムしてますからご存じなんですね。それをまた救い上げる仕組みが最初から用意されていたんですね。それで、守護霊・守護神という神霊を、私たち一人一人の魂の中に組み込まれた。

○人間の魂は七つの心で、出来上がっているということが、『神と人間』という本の中に書いてありますね。宇宙神の心が一番上であって、そこから下に降りる。まず、片方に守護神の心、守護霊の心を配置した。この守護霊・守護神の心と並んで、直霊の心、私はこれを、神の体の心ということで、神体の心と理解してます。その下に、守護霊の横に分霊の心があると『神と人間』に書いてあります。これは霊体の心っていうふうに私は解釈しています。今言っただけで五つの心があり、守護霊の心と分霊の心、霊体の心が下で繋がり降りてきて、その下に幽体の心があり、それから一番下に肉体の心があるというふうになっています。

○これで七つの心ですね。下から言うと、肉体・幽体・分霊・直霊・守護霊・守護神・一番上に宇宙神の心っていうふうになってます。だから宇宙神の心とまではいかななくても、守護霊・守護神とか直霊・分霊のところまで、私たちの表面意識がはっきりと自覚的に戻りますと、ワンネスっていうことが、ただの観念ではなくて、当たり前理解できる段階に戻ります。

○戻るっていうのは、元々わかっていたことだからです。忘れてただけなんです。でも、思い出すときが今来たんです。そうしたことは、もうおひとりおひとりの心の中で、思い出されてる方もいらっしゃるんじゃないでしょうか。

○今日の動画の会でもおっしゃってましたけど、守護霊・守護神と一体化して生きる段階になりますと、必要な過去の体験とか知識とか、そういうものが今の私たちのこの当たり前の意識の中に蘇ってくるんですね。何か劇的な体験をするっていうわけじゃないんだけど、もう当たり前そういう…、昔やってたことが思い出されてくる。それは地球での過去世だけではなく、金星の前にもっと違う他の星々を開拓していた時代の記憶も思い出してきている方もいらっしゃるかもしれない。

○「あなた方は旧い旧い旧い魂なんですよ」って、昌美先生がよくおっしゃいましたけれども、それはただ単に、地球界で旧いというだけではなく、「宇宙のいろいろな惑星を開拓してきた、そういう実績を持った魂なんですよ」っていうことを言いたかったんだと思うんです。

○私たちは、地球に来てから生まれたわけではありません。少なくとも、今ここにいらっしゃる皆さんは、地球へ来てから生まれたような若い魂の方はいらっしゃると思います。みんないろんな星を開拓して歩いた仲間なんだと思っております。

○だから、「不可能だと思わなければ何でもできるのよ」って言われますけれども、それはそうなんです。その通りなんです。なぜならば、この世で私たちが経験するようなことは、どこかの星ですでに経験してるからです。

○もうすでに経験していることを、なぞっているだけなんですね。忘れているから、「どうしよう、どうしよう」ってなるんですけど、それでさえも、忘れていてさえも、ご自分の守護霊さまと…、少なくとも守護霊さまと一つになる。「守護霊さまと自分は一緒に生きてるんだ」っていう気持ちを、自分の当たり前になりますと、人生の中で、八方ふさがりっていうことはなくなると思います。

○今ここに参加しておられる方々の中でも、素晴らしい体験をされてる方がいっぱいいるんですね。今度、勉強会とは別にそういう方の体験をみんなで聞ける機会を設けようかと思っていますけれども、もう本当に神我一体になり、悟りを開き、守護霊・守護神と一体になって生きてるという方々がいらっしゃいます。

○自分たちが何者なのかっていうことを、はっきりと思い出しさえすれば、私たちはもうこの体が自分だって思っていないわけですから、もう生きるとか死ぬとか、そういうことを超えたところで、生きてゆくことができます。

○多分この中で今、ほとんどの方は、生きるとか死ぬとか、そういうことを超えて生きてらっしゃると思います。「五井先生が呼んでくださるんだったら、いつでも帰っていいわよ」って思ってる方々だと思います。

○中澤さんもこの世にいらっしゃったときに、「私はね、もういつ呼ばれてもいいと思っている。でも、もしこの世で、私に何かやるべき役割や使命がまだあるんだとしたら、死ぬ瞬間まで、そのことに力を注いでいきたい」と、電話で私に話してくださいました。去年の5月くらいにその話を伺いました。そのとき

はまだ、そこまでおつらい状態じゃなかったんですね。でもそういう元気なときに、そういうことをお話されていました。

○私たちは何のために地球に来たのか？地球という星を開拓するために来た。今回の人生で何年何月何日に生まれて、誰某という名の人間として、世界平和の祈りのグループ、救世の大光明のグループに繋がり、地球の平和のために働くっていうことも、一番最初の私たち…、地球に来たばかりの神霊の私たちは知っていたと思います。

○その地球での最後の人生を、今私たちは生きています。多分 50 歳より下の方は、この中にはいらっしやらないと思うんですけど、もう今回の人生でも、いろんな楽しいことも悲しいことも、苦しいことも喜ばしいことも、いろいろ経験してきた大きな魂の方々が、今ここにいらっしやるんだと思います。

○「何のために地球に生まれてきたのか？」ということが、はっきりと自覚的、日常的に、普通に思えるような精神状態を、自分で育ててゆくと、もう守護霊さまがどんどん直観やひらめきでいろんな必要なことを教えてください。

○今、YouTube ってものが流行っていて、結構白光の人でも YouTube にハマっている方が多いらしいんですね。いろんなスピリチュアル界隈の人たちが、いろんなお話をして、「知らなかったことが知れて楽しい」みたいな話をチラチラと聞くんですけども、私が思うのは、そんなにいろんな YouTube を見る時間あったら、自分のいのち（光）と交流したらいいのにとします。

○そうすれば、その人に一番ぴったりの話を、守護霊・守護神さまが教えてくださるんです。10 年前、20 年前と今は違います。完全に違います。今は波動的に、ものすごく繋がりやすくなっています。だから普通の自分の直観、ひらめきとして、守護霊・守護神さまと会話ができます。

○肉体人間同士のような会話ではないです。これはどういうことなんだろうなって思ったら、「守護霊さま、教えてください」って問いかけたら、それは自分のひらめき、第一直観で間髪入れずに返してくれます。『神と人間』に、「第二直観や第三直観というのは、業の答え、カルマの答えであることが多いから十分に注意せねばならぬ」と書いてあったと思うんですけど、第一直観として教えてください。

○ですから、その第一直観を逃がさないっていう練習を、一日 24 時間のうち、8 時間寝るんだとしたら残りの 16 時間を、第一直観を逃がさない過ごし方をしていると、もう YouTube 聞くよりもすごい話をいっぱい、いのちが教えてくれます。

○それはもう、自分にとって一番ぴったりの話ですから、他の人には興味がないような話かもしれないですけども、その人の道が開けるような、未来が明るくなるような、そういう話をもうどんどんどんどん教えてくれます。

○もう守護霊さまの手を掴んで離さないで生きるんです。そうやって「守護霊さまと自分は一緒に生きてるんだ」という気持ちでいると、悩んだり困ったりしないで生きていけますし、今ここにおられる方々の中にも、そうやって生きていらっしやる方が何人もいらっしやるんです。

○皆さん、恥ずかしがり屋さんなんで、今日は名前を言いませんけれども…。私は理想論や観念論は話していません。実際に誰でもでき、実際にやっている人がいる話をしております。

○初めのタイトルに書いてあった『意識の相互作用とその真相』に関連付けて言いますと、今ここで一方的に私が喋っているように見えても、裏で意識の相互作用が起こっているんですよ。それは皆さん同士の中でも起こってるし、私と皆さんの中でも起こっています。

○それは、お互いを引き上げ合い、高め合い、押し上げ合う働きが、今こうやっている 1 時間半の中で、起こっているのだと思います。

○毎日、朝晩の Zoom 祈りの会でも、ただ参加して一緒に印を組んでるだけで、時々眠くなったりしたとしても、意識の相互作用で、みんなが互いを引き上げ合っているんだと思っております。

○ということで、14 時 37 分ですね。神聖復活の印を一回だけ、心を込めてちょっとゆっくりめで、一回組んで終わりにしたいと思います。

〈神聖復活の印 – 1 回〉

- はい。それではこれで終わりにしたいと思うんですけども、何かご発言のある方はいらっしゃいますか。いらっしゃらない？
- それでは、これをもちまして、2024 年最後の勉強会を終わりにいたします。皆様ご参加くださいましてありがとうございます。マイクをオンにします。

以上